

健康通信

問合先 市民病院 (☎ 76-4131)

口腔（こうくう）がんを知ろう

歯科口腔外科 部長医師

市村 典久

◆口腔がんってなに？

現在、日本人の2人に1人が一生のうちに一度はがんと診断される時代です。がんは、さまざまな臓器に発生することはご存知かと思いますが、実はお口のなかにも『がん』ができます。

べろ（舌）や歯ぐき（歯肉）、頬の内側（頬粘膜）など、お口の中のあらゆる場所を総称して口腔（こうくう）と呼び、そこにできるがんを「口腔がん」と呼びます。お口の中にも『がん』ができると聞くと驚かれる方もいらっしゃると思いますが、実は口腔がんにかかる患者さんは年々増加しています。口腔がんは他のがんと同様に、放置しておくと他の臓器に転移し、最終的には命を落とす可能性のある怖い病気です。

◆口腔がんの原因は？

口腔がんの原因は複数ありますが、日々の習慣を少し見直すだけで、そのリスクを大きく減らすことができます。大切な健康を守るために、知っておきたい原因を挙げてみます。

1. たばことお酒

たばこの煙に含まれる発がん性物質は、口腔の粘膜に直接ダメージを与えます。また、お酒が体内で分解されてできる「アセトアルデヒド」にも発がん性があります。

特に注意が必要なのが、「たばこ＋お酒」という習慣です。この2つが重なることで、どちらか一方だけの場合と比べて、口腔がんになるリスクが数倍から数十倍にまで高まることが分かっています。

2. お口の中の刺激

意外と見落とされやすいのが、粘膜への慢性的な刺激です。合っていない入れ歯や、尖った歯が長い間同じ場所に当たり続けると、その部分の粘膜に負担がかかり続けます。こうした刺激が長期間続くことが、がんの発生に関係すると考えられています。

3. お口の不衛生な環境

歯磨きが不十分であったり、歯周病が進んでいたりすると、口の中で炎症が続く状態になります。このような慢性的な炎症も、リスクのひとつとされています。

このように、口腔がんはひとつの原因だけでなく、いくつかの要因が重なって起こる病気です。

日常生活の中で、こうした習慣を見直し、お口の環境を少しずつ整えていくことが、予防につながる大切な一歩になります。

◆口腔がんの治療法

口腔がんの治療には、主に「手術療法」「放射線療法」「薬物療法」の3つがあります。初期のがんであれば、手術によってがんを取り除くことで、治癒が期待できます。一方で、がんが進行している場合には、これらの治療を組み合わせる行うことが一般的です。また、全身状態や持病などの理由で手術が難しい患者さんでは、放射線治療を中心に行うこともあります。患者さん一人ひとりの状態に応じて、最適な治療法が選ばれます。

◆本市の口腔がん検診事業

本市では、市内に住民登録のある50歳以上の方を対象に、「口腔がん検診」を実施しています。

口腔がんは、早期に発見し、早期に治療を行えば、十分に治る可能性のある病気です。しかし初期の段階では、見た目が口内炎に似ており、痛みが出にくいという特徴があります。そのため、「痛くないから大丈夫」と思ってそのままにしまい、気づかないうちに進行してしまうことも少なくありません。

検診は、ご自身では気づきにくい「小さな変化」を見つける大切な機会です。

ぜひ積極的にご活用いただき、早期発見・早期治療につなげていただければと思います。

病院ホームページ▶

